

## 『教会は幻を語り夢を見る』 使徒言行録 2章17~18.

◆今日の聖句 『神は言われる。終わりの時に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたたちの息子と娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る。わたしの僕やはしたためにも、その時には、わたしの霊を注ぐ。すると、彼らは預言する。(=旧約-ヨエル3:1-2.)』

**要旨** ODCの伝道25周年を心からお祝い申し上げます。この記念日に私共二人にお招き戴いた事を心より御礼申し上げます。志しを立てODCを建て上げて下さったホエリー先生ご夫妻が故あって此の場に居られないのは残念ですが、主の豊かな御導きを覚え、感謝と喜びをもって礼拝を献げます。

- ① 1986年5月でした新任の宣教師夫妻が東京第一教会の礼拝に参加され、その日『札幌伝道』を熱っぽく語られ、僕は励まして送り出した事がありました。彼等がホエリー夫妻でしたが札幌白石教会で4年の忍耐期間を強いられ、1990年9月旧宣教師館のガレージでODCが産声を挙げたのです。母教会(白石)は会堂改築の難題を抱え総力で開拓伝道の手伝いが出来ず、葛西政子姉が加わったのでした。ホエリー先生ご夫妻の祈りは結実しました。従来の教会臭(堅い・暗い・重い)脱皮として、教会名もオープン ドア チャペルとしたのです。当時は結婚式場がチャペルで北星や三愛でもチャペルですが…。伝統的な賛美歌を廃してプレイズソングと短いメッセージは正に『ODC』に定着したのです。
- ② 1994年3月に現役引退し次の働き場を祈り求めた時『札幌』に導かれたのです。3月末に牧師館の整理をしている時突如トラックの横付けです。まだ引っ越し準備中です。札幌の兄弟三人です。午後4時頃『じゃあ待ってますからね』と、我が家の全荷物を積んで札幌に帰って行ったのです。相談も計画も何も無くです。『主に任せよ、汝が身を、主は喜び助けません』です。数日後僕達は自家用車でジョイフルチャペルに着いた途端、会堂の真ん前に家が用意され荷物が整えられていたのです。僕の仕事も『ジョイフルチャペル協力牧師-ODC派遣』です。本人の承諾無し…です。勿論『主よ感謝』でしたが。葛西兄と横矢兄は学生の時に出会い、同時期『主イエス』の弟子に、信仰と祈りの友だったのです。
- ③ 今ODCの愛兄姉にお会いし改めて天父の豊かな御導きを感謝しています。当時の子達が立派に成長し信仰の交わりに加えられて居ること。また新しい信仰者の顔触れが加えられていること等です。60年以上教会のご用に用いられておりますがODCで経験した印象深い礼拝が有りますので紹介します。その日は私のメッセージでした。シェリーさんのご両親が来日されて、英語の通訳付き宣教だったのです。ところが新年度だったので札大の韓国留学生が数人、モンゴルの留学生が数人礼拝に来られたのです。咄嗟にメンバーの美姫さんに韓国語、村井愛さんに中国語の通訳をお願いし、何時もの手話通訳も加えて、僕の宣教に4人の通訳者(英語・韓国語・中国語と手話)でした。感謝！感謝！
- ④ 老人の夢ですODCだからの夢です。複数の奉仕者に恵まれています。日曜日の午前中2回の礼拝、午後2回の礼拝です。1回は日本語礼拝、1回は英語礼拝、更に1回韓国語礼拝、もう1回は他の外国語礼拝を企画してみても？ み言葉は『老人は夢を見る』ですから。ODCの愛兄妹の皆様は若いので『幻を語って』みて下さい。忙しくなりますか。『み言葉を宣べ伝える』ための時間は少ないのですよ。主のご再臨時に『エンパティ ハンド』ですか。(実例→東京バプ=英語礼拝=会衆の半数は日本人です)